春岡村の伝説

＜村の鎮守　深作氷川神社＞

　普段はひっそりとしている氷川神社も、新年の初詣の時と８月２７日（第４土曜日）のささら獅子舞のときは地元の人達でにぎわいます。（ささら獅子舞はさいたま市の無形民俗文化財です。昭和４３年にいったん途絶えた後、昭和５８年に復活しましたが、平成２６年、祭りの直前に後継者のことでもめて中止となって以来開催されていません）１月１日には破魔矢が売られ、参拝者には甘酒やみかん、酒が振舞われます。前庭では焚火が焚かれ、その年の当番の氏子さんたちが焚火の周りに集まり、椅子などに腰をおろして火の番です。「やあ、みっちゃん」「おう、しげちゃん、元気かい」と、春岡小学校を卒業したおじいさん、おばあさんら幼馴染たちが手を挙げて挨拶しています。前の年に買った破魔矢はここで焼きます。

　氷川神社はかつての大字深作御手洗瀬、と呼ばれた地にあります。祭神は須佐之男命です。江戸時代の終りに編纂された『新編武蔵風土記』によれば
「村ノ鎮守ナリ　覚蔵院ノ持　社辺に庵ヲ作リ覚蔵院ヨリ僧ヲオヒテ社ヲ守ラシム」
とあります。日本では長い間神仏混合でしたが、明治になると神仏分離が進められ、氷川神社は覚蔵院による寺持ちから独立して深作村の鎮守になりました。

　階段をのぼって参道をいくと、大小数々の祠が並んでいます。これらは明治４１年に深作村のあちこちにあった祠をここにまとめたのです。
諏訪社はかつては春岡小学校の南隣に鎮座していました。ささら獅子舞はこの諏訪社が発祥の地です。覚蔵院の中興の祖盛範（天明七年 1787 没）がこの諏訪社で、村の若者たちに田楽や神楽、念仏踊りなどを合わせた創作舞を舞わせたのが始まり、といわれています。氷川神社にはほかに神明社、三島社、菅原社、貝崎にあった八幡社、芝浦工大の寮の辺りにあった日枝社、宝積寺の西側にあった第六天社、岡野洛にあった稲荷社、天理教の教会の南側にあった白山社、春岡小学校の近くの稲荷台にあった稲荷社が並んでいます。今度の年越しはすぐそこの氷川様まで歩いて行って新年を迎える、というのもいいかもしれませんね。

（写真は平成２５年８月２４日のささら獅子舞の時）

※来年１月５日～２月27日春野図書館で昔の写真展をやります。これに先立ち春野図書館では「春野周辺のちょっと昔の写真」をさがしています。アーバンやプロムナード界隈の２０～３０年位前の写真をお持ちの方がいらっしゃいましたらお借りしたいです。詳しくは春野図書館か平山まで、ご連絡下さい。

（平山由喜）